

平成23年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

※ ◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名： 西川図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 ・レファレンスサービスの充実	・市民に身近な生活課題解決のため、レファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	巻図書館開館によって、レファレンス件数の総数は増加した。情報提供には、迅速かつ適切な対応になるよう努めた。	市民から気軽に声をかけてもらいたいので、窓口には余裕をもたせて人員を配置したいところである。しかし、現状では事業など他の業務を優先しているため、最低限度の人員を確保してはいるものの、十分であるとはいえない。	1 大変評価する。0% 2 ある程度評価する。100% 3 評価できない。0%	・窓口業務も事業もどちらも大切なのでかたよることなく、両輪でがんばってもらいたい。忙しい日や時間帯を把握して、その時には窓口業務に集中するなどできないか？ ・レファレンス、個人予約件数が増え、数値的には評価できるが、窓口対応が十分でない自己評価されており、今後のサービス向上が求められる。
	◆館の重点評価項目 ・パス・ファインダー(米とか蛸とか特定のテーマについての情報への案内サービス)の作成	・西川図書館でパス・ファインダーを作成する。	事業等他の業務を優先させたため、結果的に優先順位が低くなってしまっており、作成することができなかった。	郷土関係について、そのニーズを検討して、パス・ファインダー資料を作成する必要があると考えている。作成が現実的に可能になるよう、業務の優先順位を上げて、他の業務との時間配分の調整が重要になってくるが、なんとか実現したい。	1 大変評価する。0% 2 ある程度評価する。38% 3 評価できない。62%	・パスファインダーの中味が知られていない。広報・啓発が必要と思う。 ・パスファインダーの作りは急がなくて良いが、その前に「調査・研究のために図書館を利用する人が増えるよう、これも宣伝・広報、あるいは講座企画などに力をいれたいものである。
分権型図書館	◇全館共通評価項目 ・地域資料の収集	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する・特に中央図書館所在地域の資料収集に努める。	巻図書館に関しては、開館当初から旧巻町に關係する資料収集として、「原発コーナー」を設置している。西川図書館では特に設けてはいない。	巻図書館は、既存の「原発コーナー」をより充実させていく方針である。西川図書館は、平成24年度から地域に根差したテーマで資料の収集を図ることとしている。資料が充実したコーナーの設置に至るには、今年度中には困難な見通し(資料の充実という課題達成は、数値化が困難なため難易度が高い)だが、業務の優先順位を最優先の1つとして取り組みたい。	1 大変評価する。13% 2 ある程度評価する。62% 3 評価できない。25%	・これからの課題だと思うが、地域資料の収集は「人」を介してしか集められない。人的なネットワークをつかんでほしい。地元在住の図書館員に期待する。 ・地域毎に資料の知識者がいらつしゃるので、その方々の協力が得られるよう、啓発・PRをする。
	◆館の重点評価項目 ・利用者懇談会の開催	西蒲区の居住者を対象に、図書館についての多様な声を聞くことを目的とする。	西川図書館(10/29)3人、巻図書館(2/3)1人	西川図書館の本会は、ここ3年は3人から4人の集まりにとどまり、参加者も特定の方の常連化の傾向が見られる。そのことから会の趣旨が十分に生かされているとはいえない状況にある。話し合いに自由・闊達な意見が飛び交うためには、最低6人はほしいところである。利用者懇談会の成功した事例があれば、その成功の要件を今後の参考にしたい。当面は見直しの対象事業とする。	1 大変評価する。0% 2 ある程度評価する。50% 3 評価できない。50%	・自己評価にあるように少数の特定者に限られているので、広げていく工夫が必要である。 ・毎回同じことを繰り返している。きちんと反省し、会の持ち方を工夫し、意味のあるものにすべきだ。特に日時、名称は検討し直すべきだ。 ・懇談会に出席した。日も悪いし、宣伝や声かけをしているのか分からなかった。本当に市民の声を聞いて、変化したいのか？人を呼びたくないのではとさえ思った。「常連化」とは心外である。図書館側の努力や真意は何のためにやるのか。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目 ・ブックスタートの実施	・1歳誕生歯科健診会場において、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験していただく「ブックスタート」を実施する。	巻地区(巻地域保健福祉センター)と潟東地区(潟東健康センター)にて、年間合計18回実施。参加人数は、384人(検診受診者392人)。ボランティア数は68人。	対象者のうち、約98%の親子がブックスタートを受けた。順調に実施している。ボランティアの方々には、楽しんで参加していただいている。	1 大変評価する。87% 2 ある程度評価する。13% 3 評価できない。0%	・ブックスタートに莫大なお金がかかっている。それが本当に効果があるのか疑問の声がある。改善点を見つけ、さらに効果的なものにしていく努力を続けることは大切。図書館の利用に結び付くよう、つなぎをどうするのか。やりっぱなしでは税金のむだ使い。 ・ある自治体では、10年後(10歳時)に追跡調査を行っている。効果を知るには、そのような調査が必要である。
	◆館の重点評価項目 ・学校図書館の夏休みの地域支援(学校図書館支援センター)	夏休み期間中、学校図書館の地域開放に向けた支援を行う(複数校)。	6校(漆山小学校、巻南小学校、巻北小学校、升潟小学校、中之口西小学校、松野尾小学校)。	学校と市立図書館が連携し、子どもたちの読書活動を推進することを目的としている。学校司書、コーディネータ、ボランティアと協働して事業を実施することによって、おはなし会のノウハウを伝え、ゆくゆくは学校独自で同様なイベントを実施できるように支援していく。支援活動は、継続実施。	1 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。50% 3 評価できない。0%	・学校図書館の地域開放が公共図書館の代替となるなどと、ゆめゆめ思わないでほしいものだ。図書館のない地域には、公共図書館を作っていくべき。 ・支援センターの職員が行うお話しは評価が高い。さすがという参加者の感想だった。よいお手本になるし、参加した人は大いに楽しんだ。図書館の良い宣伝になると思う。地域開放の目的やよりよいやり方、生かし方を探ることも必要。
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目 ・共催事業の実施	・市民との協働をいっそう推進するためボランティア・教育機関や民間団体と連携して事業を行う。	平成23年度から、岩室図書館の部屋を使用して、古典講座を行う団体が毎月活動するようになったため数値が増えた。	共催事業は多くの団体と連携を図ることを目的としているので、活動内容が多様でかつ主体的な団体からの申し込みがあることは好ましいと考える。	1 大変評価する。38% 2 ある程度評価する。62% 3 評価できない。0%	・岩室のボランティアが増えるためにも、まず利用してもらうことが大切なので、とてもよい取組みだと思う。 ・職員数が充分ではないため、積極的に推進しているという姿勢は何えない。主催グループの自主性に支えられているが、本来もっと「連携」が強くなるべき。 ・ボランティアの積極的な活動の支援が必要だ。
	◆館の重点評価項目 ・ボランティア交流会の開催	西蒲区の図書館ボランティアを対象に交流会を開催する。	10月1日実施。 15人参加。	実効性のある会議になるよう企画し、継続する必要がある。西蒲区の読み聞かせボランティアは、公共図書館で活動する方と、学校で活動する方、両方で活動する方がいる。また会議に参加しやすい時間帯においても、日中か夜間かによって、都合が大きく分かれる。これらのことから、複数回の実施の可能性や、年度を越えて行うこと、公共図書館と学校に分けて個別に行うこと、また合同で行うことなどの多様な選択肢から総合的に検討を進めていく。	1 大変評価する。13% 2 ある程度評価する。87% 3 評価できない。0%	・同じボランティアでも、目的、場所、やっていることなど違うので、交流会の目的を明確に定めて、行って良かったと思われる交流にすることが、次につながると思う。 ・西蒲区だけでなく、西川図書館には地区のボランティアが集まることが多い。「区内」と限定せず、そのような特色を逆に「売り物」として打ち出してよいと思う。